

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990300085		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	グループホーム フレンド倶楽部郡山		
所在地	奈良県大和郡山市外川町72-1		
自己評価作成日	平成 28年10月19日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=2990300085-00&PrefCd=29&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成28年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名、2ユニットあり、ご入居者18名の方々が、家庭的な雰囲気の中、明るく・楽しく・生き生きと生活して頂けるよう、「心と身体に寄り添い安心出来る生活」を行っています。近くには、大型ショッピングモールがあり、買い物やお出掛けにも便利です。ホームの目の前には、医療モールがあり、徒歩圏内での医療面のサポートも安心です。家庭菜園では、四季折々の野菜を栽培し、毎日の食事に取り入れています。地域のボランティアの方々にも支えられています。夏祭り・敬老会等、季節毎のイベントには、ご家族様も一緒に楽しんで頂けるように、職員一丸となって取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大和郡山市街地の西に位置する。バイパス道路沿いに開けた大型スーパーや医療モールの便利な一画にある。周囲には遮る大きな建物はなく、川を隔てた西には矢田山丘陵につながる田畑や農家が広がる。利用者は落ち着いた生活をしながら、隣接する法人が関わる施設やクリニックなどを利用する人達の賑わいを目にしつつ、散歩や事業所裏の畑に出て作物や花の出来具合を楽しんでいる。管理者や職員は身近にある法人内の医療や福祉施設と協力しながら、活発な意見や提案により利用者中心の上質なケアを目指そうとしている意欲が感じられる。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内の見やすい所に運営理念を掲示し、何時でも確認出来るようにしている。この理念を元に、入居者様が安心して生活していただけるように、日々取り組んでいる。	利用者の心と体に寄り添い、尊厳を守り、地域に開かれた事業所でありたいと理念を掲げ、職員は日々のケアの中で実践している。また事業所の今年の目標は「自走人材を作る」と設定して、更にケア内容の充実を目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェへの参加や認知症サポーターの講習会、また地域中学校の福祉体験の受け入れや、幼稚園の交流会、お祭り等、地域の方々との交流を行っている。	敷地内の週2回開く認知症カフェにて、飲み物や体操で気分転換をする。幼稚園児の来訪や運動会見物に行ったり、福祉体験の中学生と身近に話せて利用者も楽しみ笑顔も見えてくる。外川町秋祭りにも参加するなど地域との交流を積極的に行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、ケア学会を開催し、事例研究を地域の方や事業所、ご家族様等へ発信し、交流を深めている。また継続して、認知症サポーターや認知症カフェの取り組みも行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事・ホームでの取り組み・活動等をスライドショーを活用して報告し、意見や助言をいただき、サービス向上に反映し取り組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議を小規模多機能事業所と同時開催し、市役所福祉課職員、利用者、家族などの参加を得て開催している。会議では、活動報告やスライド上映で意見交換を行ない、助言を受けている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内や議事録を持参し、コミュニケーションを図っている。運営推進会議にも参加していただき、情報の交換や連携を深めている。	市役所福祉課へ毎月発行の「笑顔便り」やパンフレットを持参し、事業所行事を伝えたり、入居者情報交換をしている。緊急の認知症徘徊者の情報伝達で協力要請されることもある。法人の「フレンド学会」開催において、グループ全体が行うケアの質をアピールしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム全体として、身体拘束をしないケアを掲げ取り組んでいる。管理者は外部研修等に参加し学んできた内容を職員に説明・教育を行っている。又、ケア会議や職員研修でも拘束について学んでいる。	管理者や職員は法人全体の「身体拘束をしないケア」研修に参加している。管理者は事業所内部においても新任・現任の職員に分かりやすく椅子を使って拘束などの事例を挙げて研修を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等を通して、学んできた事を職員に説明・教育を行っている。また事例検討にて振り返り虐待防止の徹底に取り組んでいる。事業所内での虐待の行為はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、内部研修・外部研修等で、情報収集に努め、ケア会議等を通して学んできた内容を職員に説明・教育を行っているが、職員一人一人の理解としては、まだまだ不十分な所はある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取って、説明を行っている。理解・納得いただけたか、また疑問点はないか、一方的な説明になっていないか等を確認しながら、説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、入居者様の日頃からの対応や会話を通じて苦情・不満を汲み取るように努めている。また、苦情受け付けの窓口について説明を行っている。	毎月「一言通信」に利用者の日常の様子や写真を添えて送っている。事業所の敬老会や夏祭り開催時は、多数の家族が参加しており意見や希望を聴くいい機会となっており、いつも同じ衣服を着ているなどの指摘を受け改善した経緯がある。来られない家族にも、途切れず電話連絡をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より、各ユニットの意見に耳を傾け、管理者は最終判断を行っている。事業所内だけで解決しない案件に関しては、上長や本部へ相談・報告して運営に反映している。	管理者と職員は日常的に意見を出し合っているが、月に1回のケア会議では提案などが活発に出て3時間となる事もあり、まず試してみる事から始めている。管理者が判断できない事案は本部のリーダー会議などで提案し判断を仰いでいる。管理者との個別面談は年2回設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談とは別に、普段から積極的に、コミュニケーションを図り、個々が向上心を持って働けるような環境作りを努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を導入しており、グループ内独自のチェックリストを用いてOJTを進めている。OJT指導員が各事業所を巡回し、OJTの進捗状況の把握、指導にあたり職員のスキルアップを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内・外での研修や、月1回の管理者会議等で、交流を図り、意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居に関する問い合わせがあった場合、ご入居していただく事を全面的に推し進めるのではなく、まずは、ご本人様・ご家族様の想いに受け止め、話しやすい雰囲気・傾聴を心掛けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの、ご家族様のご苦勞や努力、現在おかれている状況等に共感し困っている事・不安な事・希望や要望等を傾聴するように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に直接相談があった場合は、相談の内容を十分に吟味し、その方にとって、他サービスも含め、何が一番良いのかを客観的に見極めるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、お裁縫・食事の準備や後片付け等手伝っていただいたり、役割を分担していただいたりしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から蜜に連絡を取る様にしながら、月1回、職員からの一言通信(日頃の様子のお手紙と写真)・笑顔便り(グループ内の全グループホームの、ご様子をまとめた新聞)を送付し、信頼関係の向上に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚、ご友人の方には、何時でも気軽に面会に来て頂けるように配慮している。年賀状等のやり取りのあった方には、入居後もやり取りを続けられるように支援している。	遠方からの知り合いが来たり、家族と電話で話しをしたり、知人からの葉書が届いたり、家族と墓参りや、思い出の所へドライブしたり、散髪屋へ行く方とか本人が馴染みの人や場所への係りを絶やさないうえ支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を考慮し、会話や交流の機会を職員が間に入り支援している。関わりも持つ中で、トラブルが出そうな時は、必ず見守りを行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり、長期入院でご退去になった場合でも面会やお見舞いに伺ったり、ケアのアドバイス等をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の、ご意見や想いに沿った暮らし方をしている。その方の生活歴や習慣、その人らしくを尊重している。	適時に本人や家族から思いや意向、生活歴や趣味など聴き取り、アセスメントシートに記録し、職員が共有している。大正琴を奏でたり、編み物や絵を描くなどの得意なことや聴き取ったことを介護日誌に記録して介護計画にも活用している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との会話の中や、ご本人様とのコミュニケーションの中で把握するように努めている。一人一人が自由に過ごして頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、スタッフ間で共有している。また日々のご様子を介護記録に記入しており、職員間で情報共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から入居者様の意見や要望を聞き、またご家族様にも面会時にも積極的に意見を伺うようにしている。それらに加え、担当職員が中心になり、意見やアイデアを出し合って介護計画を作成している。	利用開始後の1ヶ月は暫定プランを立て対応している。本人、家族から意見や要望を聴き、担当職員や往診医師や看護師の意見も入れてケアマネジャーが介護計画を作成している。介護計画を3ヶ月ごとに見直し、半年でモニタリングを行っている。	利用者の課題抽出はプランシートにわかりやすく記入され、評価もされているが、現在の利用者が出来ている事のプラス面や評価を記入できる様子を工夫し、前向きな介護計画となることを期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを用意して、日常の生活の様子や、バイタル値、排泄状況・食事量・水分量・往診時の内容等を記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能と合同で、行事やレクリエーションを定期的に行ったり、グループ内の利点を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月訪問で、ヘアカットに来て頂いている。またボランティアの訪問や、地域の行事への参加等、同グループではあるが、近隣のグループホームとも交流している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		内科医の月2回の往診があるが、本人が希望する医療機関へ受診する利用者もいる。事業所近辺にある歩いてでも行ける医療モール内の眼科、皮膚科、整形外科、歯科の受診が可能である。毎週訪問の看護師により体調チェックを受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、毎週火曜日に訪問看護があり、健康管理や職員への助言を行ってもらっている。往診医とも連携をとって下さり、体調不良時や緊急に対応出来る体制を作っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際に、往診医や看護師に間に合ってもらい、連携がスムーズに行えるようにしている。入院の際は、管理者や看護師が定期的に訪問し、状態の把握に努め、退院時にDr.とのカンファレンスも行えるように関係作りを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し、重度化・終末期に入る前には、往診医・看護師・職員が、ご家族様とカンファレンスを行い、方針を決めている。グループ内の施設や、重度の方を受け入れられる施設と連携し、ご家族様に提案させていただいている。	利用者の重度化に伴い、安心できる施設の紹介をしたり、重度化対応指針により、本人、家族の希望を聴いて話し合い看取りのケアに移行することもある。最近、家族の希望で医師、看護師、職員と家族の連携のもと看取りの介護を行った。今後も研修を行い知識を深め、本人や家族の希望に添った看取りのケアを行いたいと感じている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成している。又、ケア会議の中で研修を行い、職員に周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を策定し年2回、避難訓練及び・初期消火の消火訓練を行っている。ご家族様も参加され、昼間・夜間を想定をし、実施している。	年2回昼間の避難訓練と夜間想定での避難訓練を実施している。運営推進会議の当日に参加した家族にも階下へ避難脱出のマットレス使用などを体験してもらった。太陽光発電を設置しオール電化としガス、石油を使わない火災をおこさない安全管理をしている。非常災害時に備え米、缶詰、飲料水など3日分の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア内でのトイレの声掛けや排泄に関する話題には配慮し、声掛けを行っている。同性介助の希望があれば、対応している。	利用者へトイレ誘導や入浴時の声掛けは大声にならないようにさりげなく行い、また姓で呼びかけ、居室への入室時は必ずロックをして入る。また、トイレ誘導や入浴時は同性介助を心がけている。入浴介助は保温や身体を覆う為のタオルを活用している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や献立の希望をお聞きしたりしている。レクリエーションの参加も強制はせず、ご本人様の希望や状態を見ながら声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は、職員の都合にならないように注意している。決まった時間に縛られるのではなく、入居者様のペースに合わせて行っている。居室で過ごされる方もおられるが、定期的に職員が声を掛けに伺ったり、居室の外から見守りを行うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に添えるように髪型や毛染め・パーマ等、服装には、気を付けて、その方らしさを保てるようにしている。ご家族様の協力も得て支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自宅に居る時と同じように、冷蔵庫の中身を見て、また入居者様にも、お尋ねし、毎日の献立を決めている。食事の準備・後片付けも出来る限り一緒に行っている。	毎日の献立は利用者話し合い、職員が食材を買いに行き、利用者も米研ぎや材料を切ったり手伝い、その日の担当職員が調理して提供している。部屋に煮物や炒め物のおいしい匂いが漂う。事業所の畑の収穫物や家族が作った野菜などが食卓に上ることがある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが偏らないよう、又同じ献立が続かないように、献立日誌に記録している。食事摂取量や水分摂取量の記録を基に摂取量が減っている場合は、早期に対応出来るようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの誘導、介助が必要な方には職員で行い、一人一人に応じた支援を行っている。治療が必要な場合は、ご家族様に連絡を取り、提携歯科医院による往診に来て頂いている。義歯は、夜間洗浄液に浸けて保管させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿間隔の把握が出来るように、個別に排泄記録表を作り、個々の排泄パターンを確認し、誘導・声掛けを行っている。夜間トイレに行く事が困難な方には、ポータブルトイレを使用して頂き、自力で排泄出来る環境の提供を行っている。	排泄記録表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。トイレでの排泄を嫌がる方もあり、時間を置いたり、職員を変えて声掛けをしたり工夫をしている。現在布パンツが6名で、夜間ポータブルトイレ使用の方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材、毎日のヨーグルト・牛乳、腸の働きを促す体操等、水分摂取量1日1000mlを目標にて、便秘対策をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の生活習慣を尊重し、入浴時間・回数をお聞きしている。落ち着いて入浴して頂けるように、入浴は1名ずつ、希望があれば、入浴剤を使用し色彩と香りを楽しんで頂いている。	週3回位の入浴目安であるが、希望により毎日でも可能で曜日は決めていない。午後に入浴時間を設定して1日3 - 4人が入り、最近ピンク色の入浴剤が利用者に人気である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたいと申し入れがあった時や身体の不調を訴えられた時には、居室まで案内し、ゆっくりと休息して頂いている。生活レクや個別レク等で個々に合った生活リズムを作るように配慮し夜間は心地良い眠りにつくよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を勉強すると共に、薬の容量・服薬支援の方法に変更がないか、毎時確認している。医師の指示通りに服薬していただき、症状に変化があれば記録し、医師に伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、調理のお手伝い、食器洗い、裁縫等、一人一人のADLに応じて役割分担をしている。レクリレーションも個々の趣味や好みに応じた事を楽しんで頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得たり、職員の配置を多くする等、勤務体制の工夫をし外出・花見・音楽祭等のイベントに参加していただいている。	週に1回は近隣散歩をしたり、天気の良い日は事業所前広場にテーブルを出してお茶会をしている。ドライブを兼ねて民族博物館や大型スーパーや四季折々の花見見物に遠出をしている。誕生日にはマンツーマンの夕食や家族とでかけたりすることで喜んでもらっている。	事業所の周りの一画を利用して、パーティションなどを活用し、気軽に外気浴を楽しむひと時があれば利用者の気分転換と健康保持に繋がると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を所持を必要とされる方はおられないが、買い物レクの際に支払いを職員と一緒にしていただいたり、支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する際には、子機を使用し、操作時は職員がお手伝いさせて頂きながら、居室にて、ゆっくりお話しする時間を作っている。送って来た手紙については、本人に手渡し、見て頂くようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが集まるリビングには、思い思いの過ごし方を受けられるよう、ソファ・椅子・本棚等を置いて、お気に入りの場所を確保している。また、季節を感じて頂けるように、環境の工夫をしている。	居間には本好きの方の本棚があり、レコードプレーヤーで音楽を聴いたり、一人でできる手作りゲーム器を増やしてゲーム好きの方達を楽しませている。時代劇の録画を鑑賞し楽しむ方もいる。テーブルにはどんぐりや彼岸花、コスモスの生け花が飾られて室内で季節感を楽しめる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テレビ・ソファ・テーブル・本や雑誌・レコードプレイヤーを置き、一人一人が、ゆったりと穏やかに過ごして頂けるように工夫している。また、気の合う方々でも楽しく過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様ที่ใช้慣れた家具・テーブル・鏡台や、アルバムや写真を飾られ、お話を伺いながら、住み慣れた環境に近づけるよう工夫し、自室でも安心して過ごして頂いている。	居室入口は自筆の表札や写真がかかり、部屋には洗面台があり、毎朝の見纏いを気兼ねなくできる。利用者の使い慣れた家具やテーブルが置かれて落ち着きを感じられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	ホーム内は、全てバリアフリーである。家具の配置や、ソファの配置を、その時に合った設えに変更し、手すり代わりにするように、工夫している。各居室には写真入りの表札を掲げたり、トイレのマークを大きくしたりしている。		